

## レポートの書き方

### 「スクールソーシャルワークとは何か」

福祉明美

コメント [e1]: 題目はセンタリングで太字、または文字の大きさを一つ大きくする。

コメント [e2]: 名前は、題目の次に右側へ

コメント [e3]: 必ずしも番号付けは必要ないが・・・あるとわかりやすい。

コメント [e4]: 段落最初は一文字分空ける。

コメント [e5]: 略称を用いるときは、必ず、このように示す。つまり、最初っから略称を用いてはいけない。

コメント [e6]: 段落と段落は 段落の番号付けと題目が示されていれば1行空ける。

コメント [e7]: 各段落に題目を付けない場合、いきなり段落と段落が違う視点で記載されると、文脈がつながりにくいので、接続詞をしっかりと用いることが求められる。もちろん、各段落の題目を付けても前後の文脈が全く異なっているとおかしい。

コメント [e8]: 各段落はまとまりを持たせ、ポエムと違うため、一つの文だけで一つの段落を持たせるのはやっではない。またいきなり段落と段落の間に1行空けるのはおかしいため×である。段落内においても長文の場合、起承転結として述べられていることが求められる。

コメント [e9]: 表や図を示すときは、必ず指し示す。もちろん、括弧内でなく文章内で示してもよい。

コメント [e10]: 体言止めは×、必ず、“ですます調”、か“である調”にする。もちろん、“ですます調”か“である調”の統一も必要である。

コメント [e11]: 表は 上側に表題を記載する(センタリングと太字)、図は下側に記載する。

☆文字は 普通 明朝体です。ゴシックなどは×

### 1. スクールソーシャルワークとは

■スクールソーシャルワーク(以下、SSW)とは～

～ということになる。☆最初に「本レポートで～を述べる」などと全体像を示しても構わない

### 2. 配置によるスクールソーシャルワークの視点

SSWは配置によって～である。

これは～である。

とはいえ～である。

### 3. 依頼方式によるスクールソーシャルワークの視点

一方で、SSWは依頼方式によつての違いも出る(表1参照)。これは校長依頼。

表1. スクールソーシャルワークの依頼方式

校長からの依頼	校長からのみ～
家族・子どもからの依頼	
関係機関からの依頼	

#### 4. 考察

以上より SSW は～と言えるだろう。このことについて、実際のケースにおいては～という点もあり、単なる理論の理解にとどまらず～が必要でもあろう。なお～とも言えるかもしれない。

☆客観性の高さの表現の違い 推測する<推測される、 考える<考えられる 根拠のある場合ほど後者の表現となる

各段落を起承転結 (1. 起、2. 承、3. 転、4. 結) により、記載するとまとまりをもちやすい (段落内も起承転結があってもよい)。このとき、各段落にはあまり多くの情報を雑多に書き込まず、言いたいことに繋げて1～2の事項を伝えるとわかりやすい (例: ①～である。しかし～、②～である。さらに～という指摘もある。など)。

⇒逆に言うと、一つの段落に以下のように多くの情報を盛り込むと何が言いたいのがわかりにくい。

反対を指す接続詞は段落の一つまでが普通である。

～である。しかし～である。一方で～である。但し～でもある。×

#### 引用文献

米川和雄 (2015) スクールソーシャルワーク実践技術 北大路書房, p12-15

文部科学省 (2015) 平成 26 年度スクールソーシャルワーク実践活動事例集

URL=[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1340480.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1340480.htm) (2016 年 10 月 1 日取得)

#### ☆レポートの重要点

レポートは、単にテキストにある情報の羅列を求めているのではなく、「学習事項をコンパクトにでも捉えているか、そして、それを自分なりに解釈しているか、自分なりの考えへ応用させているか」を見るためにある。

そのため自分の考えを主張すべき段落である起承転結の結の部分が大いに重要と言える。なぜなら、それは誰にも書けない自分だけの考えだからである。

このとき、人権意識やソーシャルワーカーとしての価値を持った考えでない場合、添削時に指摘されることもあるだろうが、文章を通してソーシャルワーカーとしての資質を高めるという意味では、指摘されることのほうが様々な思考を検討できる良さがあると捉えたほうが良いだろう。

なおレポート能力は、いかに読み手にわかりやすく伝えられるかを示すソーシャルワーカーの技能を示しているとも言える。よくわからない文章を書いている人は実践もそのような実践と判断できよう。

#### コメント [e12]: 4. 結 の部分

全体のまとめでもよいが、まとめた上で、自分の考えを述べると単に教科書の丸写しでなく、自分の主張を入れるというレポート記載の意義が出てくる。但し、根拠を述べてから自分の考えを記述することが求められる、なんでもかんでも前述までの文脈を無視して記載してよいわけではない。

コメント [e13]: しっかりとした根拠がないとき、自分の体験談のレベルの場合は、「～である。～と言える。」などの断定はせず、「～なこともある。～と言えるかもしれない。」と主観的事項として述べる。

コメント [e14]: なお～、などの付け足し分は、付け足しのため、それだけで長文になるのはおかしい。長文の場合は段落を換えたほうがよく、自分の主張したい事柄なら付け足し分としないほうが良い。

コメント [e15]: 番号付けは以下の順番が一般的であり、章段落を持たないレポートの場合は 1. ～、2. ～ から始まるほうが良いだろう。

- I
- II
- III 1.
- 2.
- 3. (1)
- (2)
- (3) ① ② ③

コメント [e16]: 名前 (年号) タイトル 出版社 (又は雑誌名), ページ

※1つの文献が2行以上にまたがって示される場合は、2行目以降は1文字以上左側を空ける。本書は、共著者を示す場合、ページ番号を記す。

コメント [e17]: 基本的に 英数字は半角で、数字1文字の場合に大文字もある。